かんたんトンネル!

知多草木農場発

知多草木農場では、消費者の皆さんに自然農法を体験して頂こうと、 秋から夏にかけて平らな床の上でいろいろなベビーリーフの紙コップ栽培を展示しています。でも暖かくなるとシンクイムシやハムシ、アオムシの食害にあうこともあります。そこで、移動式の日よけ枠の事例を思い出し、応用してみました。誰でもかんたんに作れて、どこでも設置で

き、1年を通して使用できます。このトンネルなら、 春先は透明ポリや不織布で 低温対策が、夏は遮光シートで日射対策がかんたんに 行えます。



用意するもの(畳1枚分のトンネルの例)

アーチ(径 11mm ×幅 90cm)3本、支柱①(径 11mm ×長さ 180cm)3本、支柱②(径 11mm ×長さ 90cm)2本、クロスバンド(径8~11mm 兼用)13個、パッカー(径 11mm)18個、U字型マルチ押さえ4本、防虫ネット※すべてホームセンターの園芸コーナーで揃います。



クロスバンド(上) パッカー(下)

作り方と設置

- ①写真1のようにアーチと支柱をクロスバンドで固定し、トンネルの骨組みを作ります。
- ②防虫ネットをパッカーで支柱に固定します(写真 2)。裾は少し長めにし、虫が入らないように支柱や角材などで押さえます。
- ③畑では、風で飛ばされないように支柱の四隅をU字型のマルチ押さえで固定します(写真3)。
 - ☆ビニール片(培養土の袋など、厚手ビニールをパッカーよりも大きめに切ったもの)をはさむと、パッカーを外す時に透明ポリ等が破れにくくなります(写真4)。



トンネルの組みかた(左:全体、中:正面から見たところ、右:四隅の組みかた)



パッカーをとめる位置



畑ではピンで支柱を固定



ビニール片の挟み込み

・あなたのワザとアイディア

凹面うね 10 年間の工夫を教えます

私の畑は砂質で水持ちが悪いので、10年前より凹面うね (M字うね)にしたところ、野菜がよく育つようになりました。 凹面うねの特徴は、①うねの中央部に水が集まり保水性が高くなり②元肥の原材料を中央部に施すことにより微生物が繁殖しやすい環境ができ③追肥や水分の供給が中央部で行えるということです。

凹面うねのポイント

- ①作物の植え付け2ヶ月~1週間前までに、前作のうね間で堆肥化しておいた落葉やモミガラ、刈草、残渣等をうねに上げて均します。 ※うね間での有機物の堆肥化は、畑の保水力を高め、冬は保温効果があり、夏は雑草対策としても有効です。
- ②うねの中央部に元肥となる資材を施して小型耕耘機で土と混ぜます。タマネギ、根菜類の場合は元肥を全面に施し小型耕耘機で 土と混ぜます(図1)。
- ③うね幅 $90cm \sim 100cm$ 、作物によりうね面を $5 \, \text{度} \sim 15 \, \text{度程度}$ の傾斜をつけレーキで鎮圧してうねを整えます(写真 1)。
- ④一度うねに雨をあてた後、ポリマルチを張ります。ポリマルチの 両端が地表に対して直角になるよう土で押さえます(図1)。
- ⑤ポリマルチを張った後、うねの中央部に 50cm間隔に 5 cmの切れ 込みを入れ、切れ込みの上に土をのせて完成です(写真 2)。 この切れ込みはマルチ内への水の取り入れ口になります。
- ⑥ポリマルチのほかにも、モミガラや落葉などいろいろなマルチが 使えます(写真3・4)。

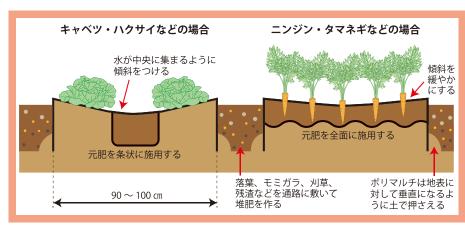


図1 凹面うねの模式図



い ま だ かつひこ **伊豫田 勝彦さん**

(愛知県岡崎市) 自然農法歴 15 年 栽培面積(畑) 10 a



傾斜を付けてうねを鎮圧



切れ込みに土をのせる



モミガラマルチの例



落ち葉マルチの例

投稿をいただいた伊豫田さんの畑は、水はけの良い畑です。水はけの悪い畑では、高うねにするなどの工夫をしてください。

コツ・アイディア・ワザ 大募集!

このコーナーでは、菜園やプランター栽培をされている方々から、おいしい野菜を育てるコツ、たくさん穫るコツ、 病虫獣害対策、簡単作業など、家庭菜園から生まれる様々なワザやアイディアを募集しています。 技術普及課(0569-89-7643)までご一報ください。